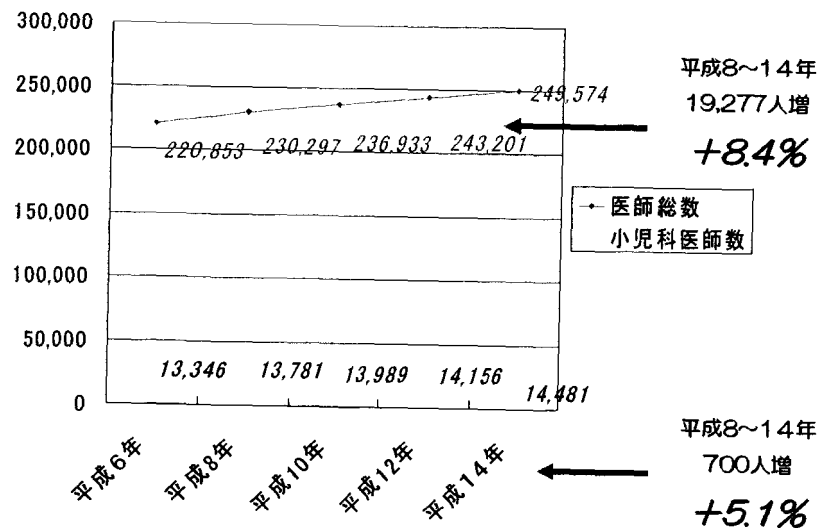


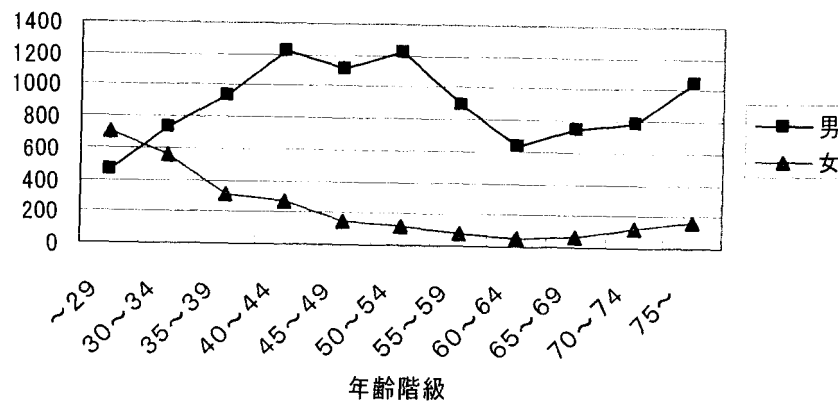
小児科医師数の推移



出典: 医師・歯科医師・薬剤師調査

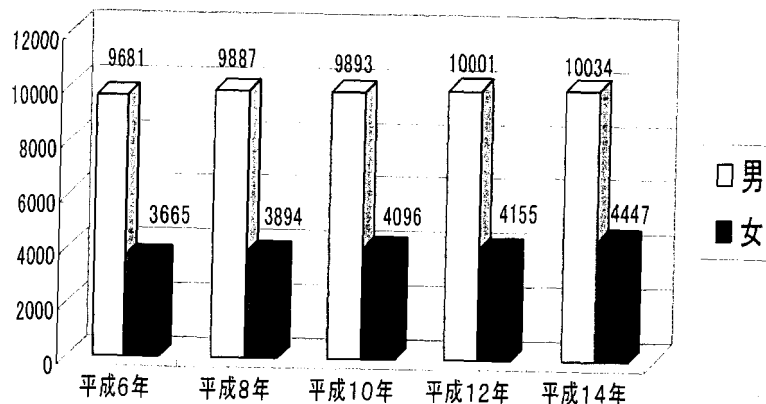
小児科医師数 (性別・年齢階級別)

平成14年



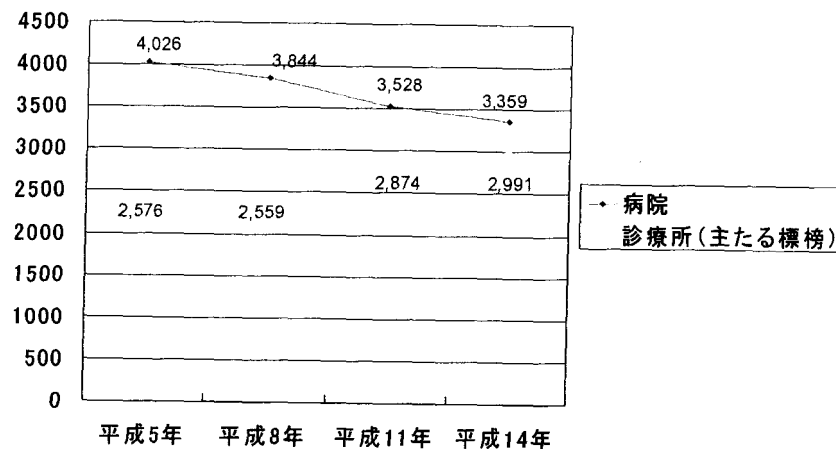
出典: 平成14年 医師・歯科医師・薬剤師調査

小児科医師数 (性別) の推移

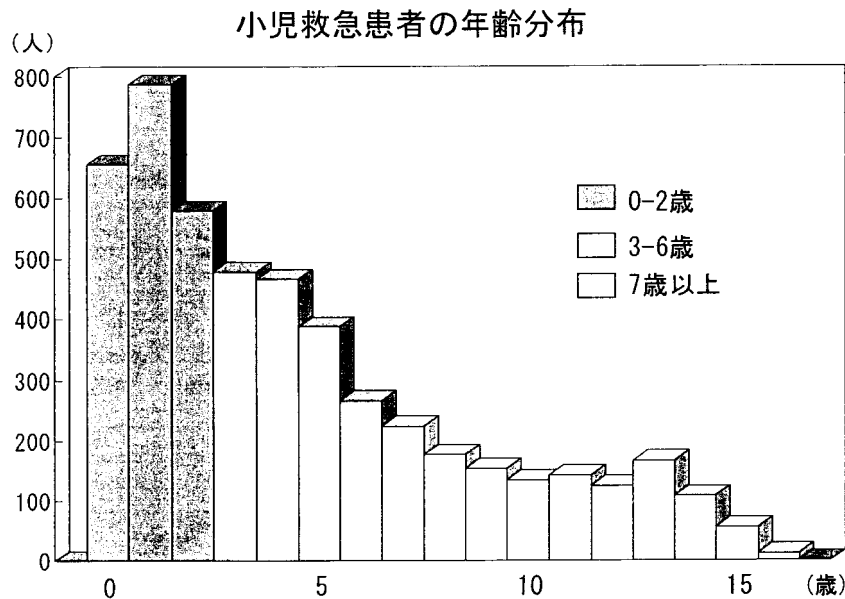


出典: 医師・歯科医師・薬剤師調査

小児科を標榜する施設数

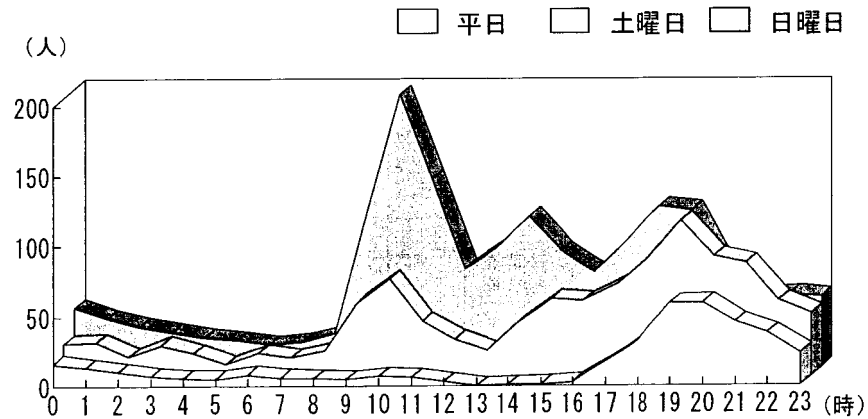


出典: 医療施設調査



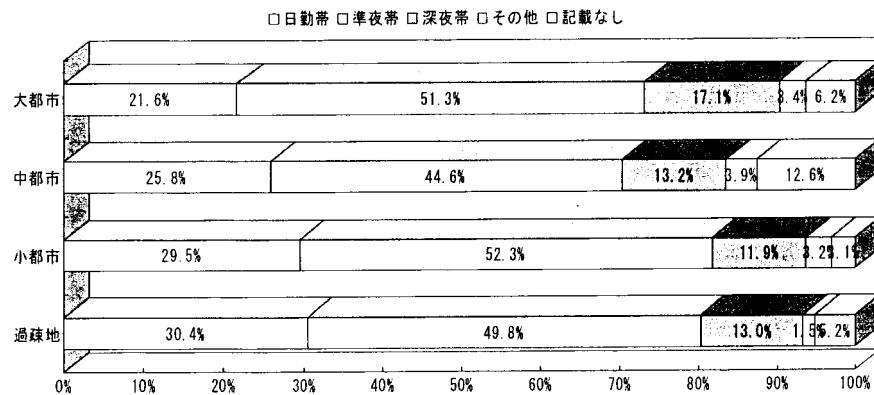
出典：平成16年度厚生労働科学研究費補助金
「小児救急医療における患者・家族ニーズへの対応策に関する研究」
(主任研究者：衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学教授)

曜日別・受診時間別の小児救急患者数



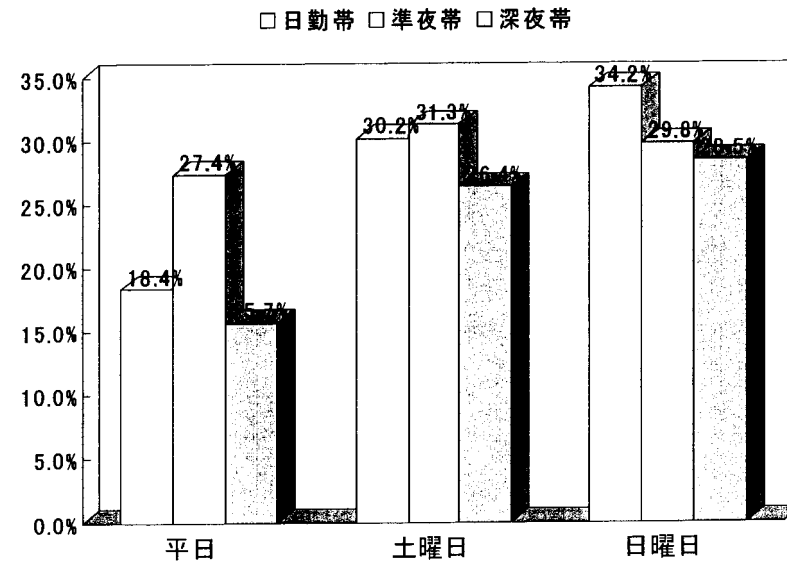
出典：平成16年度厚生労働科学研究費補助金
「小児救急医療における患者・家族ニーズへの対応策に関する研究」
(主任研究者：衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学教授)

都市サイズ別の小児救急受診時間帯



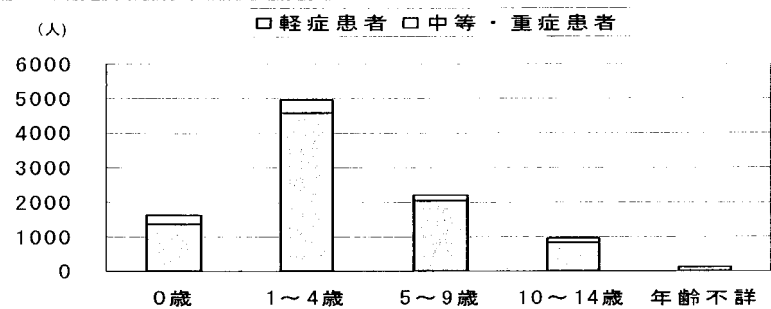
出典：平成16年度厚生労働科学研究費補助金
「小児救急医療における患者・家族ニーズへの対応策に関する研究」
(主任研究者：衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学教授)

受診不要と判定された率(曜日別受診時間帯別)



出典：平成16年度厚生労働科学研究費補助金
「小児救急医療における患者・家族ニーズへの対応策に関する研究」
(主任研究者：衛藤 義勝 東京慈恵会医科大学教授)

参考1) 2次救急医療施設に訪れる年齢別・重症度別の患者数



出典: 日本医師会小児救急医療体制のあり方に関する検討委員会報告書(平成14年)

参考2) 平成16年度東京都休日・全夜間診療事業(小児科)実績報告

(都内51施設二次小児救急医療での診療患者数)

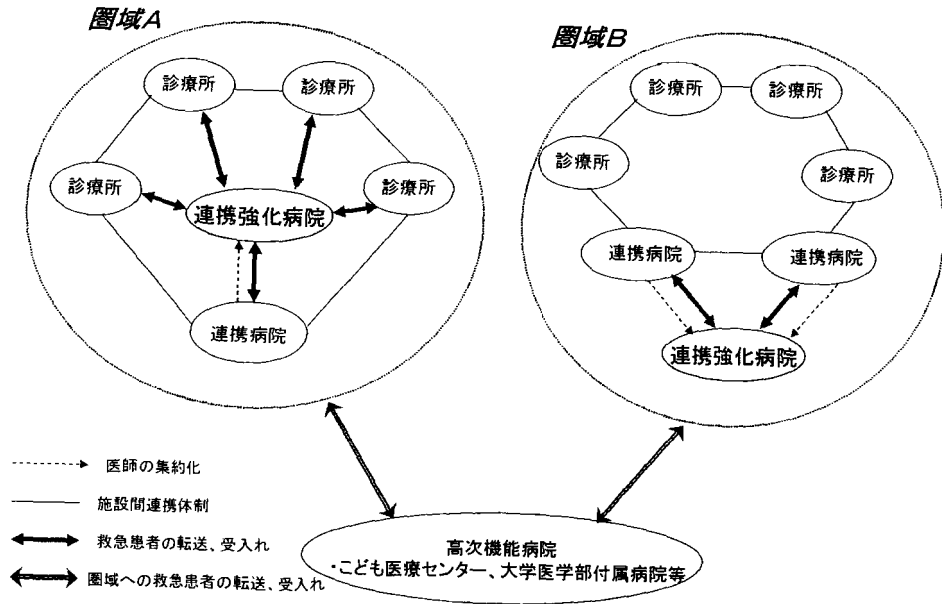
来院患者総数 33万1615人

うち入院を要しなかった患者 31万5757人(約95%)

小児2次救急医療機関を訪れる90%以上は軽症患者

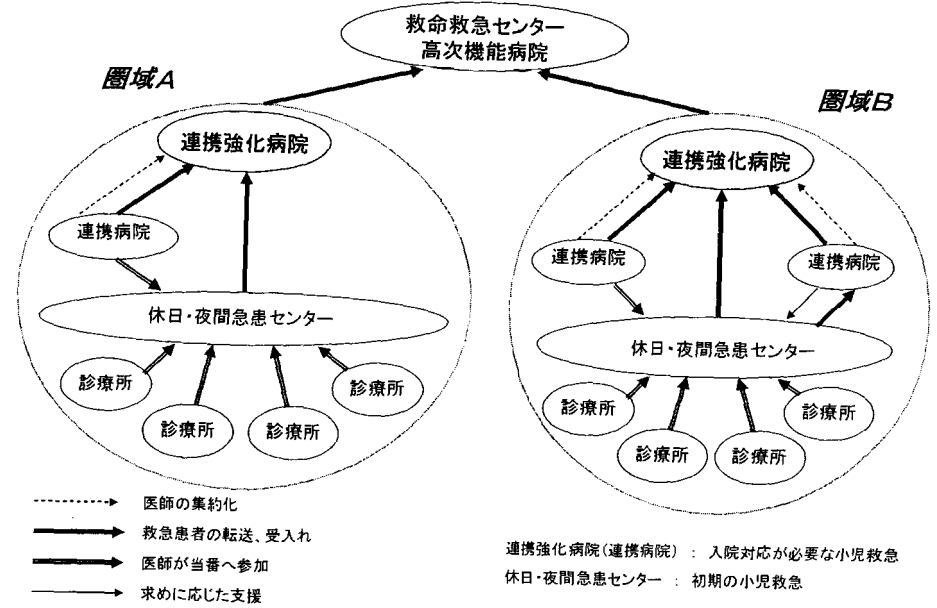
小児科の連携体制(平日昼間:患者のながれ)

～圏域毎の実情に沿った連携体制～



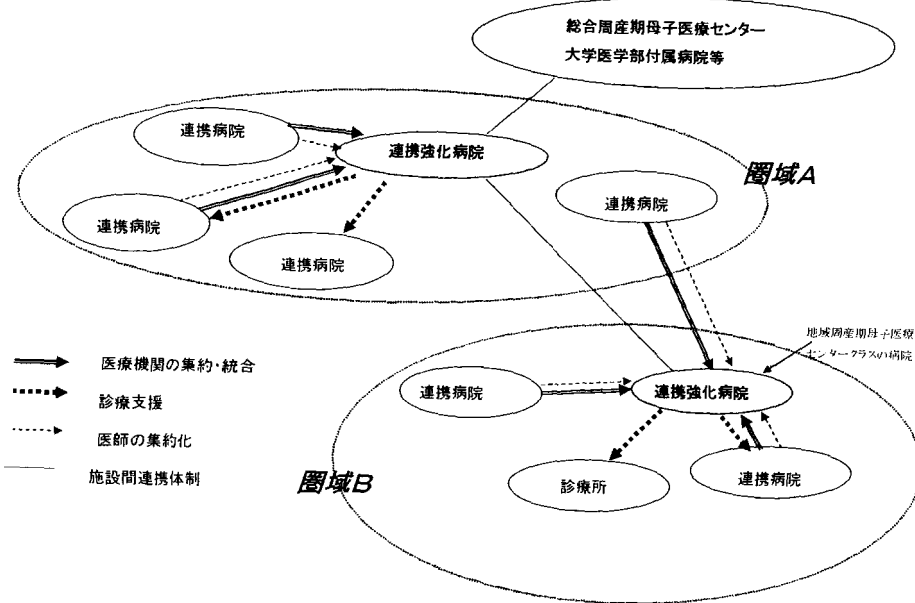
小児科の連携体制(休日・夜間:患者・医師のながれ)

～圏域毎の実情に沿った連携体制～



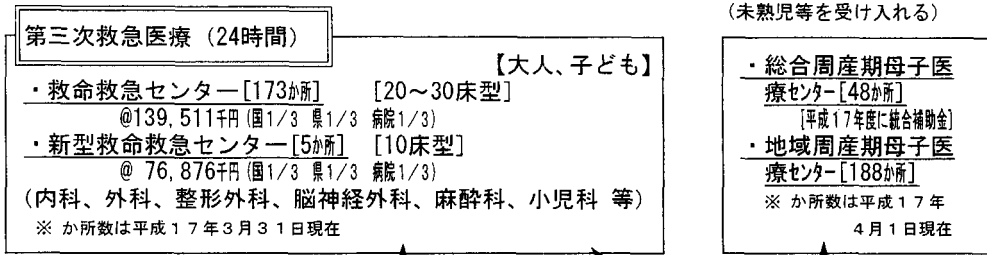
産科の連携体制

～圏域毎の実情に沿った連携体制～

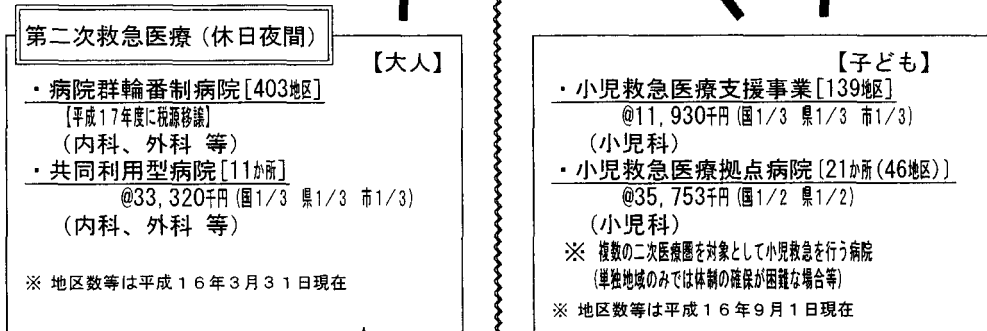


救急医療体系図（一般・小児）

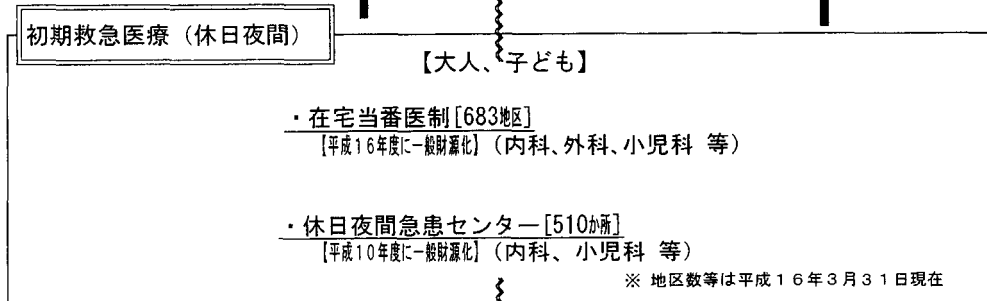
（重症・複数科にわたるすべての重篤救急患者を受け入れる）



（手術・入院を要する救急患者を受け入れる）



（比較的軽症な救急患者の診療）



大人の救急患者

子どもの救急患者

（一般の）救急医療体制

小児救急医療体制

※ 上記単価(@)については、平成17年度予算単価である。